

自由短詩による情動の発散

—冠難辛句：サライとこころの煙突掃除—

The effect of free versicle on catharsis
Kannanshinku : Expression of affect by free versicle



京都大学大学院医学研究科 山根 寛
Hiroshi Yamane ; OTR, PhD

Human Health Science Graduate School of Medicine Kyoto University

冠句



背景

- ・ 松尾芭蕉とほぼ同時代の元禄年間
- ・ 京都の堀内雲鼓によって始められた短詩文芸
- ・ 五・七・五の上の五文字を出題し、付句十二文字を募る
- ・ 江戸時代に大流行し、明治初期に一時衰微。昭和初期、大田久佐太郎によって正風冠句が誕生

特徴

- ・ 冠題と付句の間に「間」を開ける
- ・ 季語などの約束事が無い
- ・ 話し言葉を使って自由に表現できる最短詩文芸

冠難辛句



- ・ 冠難辛句は、その冠句と艱難辛苦をかけた造語
- ・ 詩歌の日常会話を超えたコミュニケーション、意識化が困難な情動の表出技法
- ・ 芸術性を求めずリズムだけを活かす自由短詩技法



例えば、「冠難辛句」を冠題にした場合
「冠難辛句 サラリとこころの煙突掃除」
「冠難辛句 小指でとばす悩みの種」
「冠難辛句 十七文字に救われる」

冠題 「こころの病い」

こころの病い 病んでへんわこころのうちまで

こころの病い 精神病がお化粧したの？

こころの病い 病んでるのはあんたらや

こころの病い そう言われてもなにか変

こころの病い きれいに呼んでも気は重い

こころの病い 元気を出して病も生きよう



冠題

「統合失調症」

統合失調症

名前変えても俺いつしょ

統合失調症

どう見えますか？ぼくら見て

統合失調症

なりたくてなったわけじゃなし

統合失調症

誰がつくった？この病い

統合失調症

つきあい始めて二〇年

統合失調症

分かってもらえぬ重なる苦しみ



冠題 「恋煩い」

恋煩い 会って苦しい会わなくても苦しい

恋煩い 知らなかったよこの苦しき

恋煩い ああこの病いにあの病い

恋煩い 会うとつらくて休んでいます

恋煩い 勇気を出してマフラー頼み

恋煩い 頼んだマフラー編み賃とられ

こんな苦じゃ
しにくんわ



冠難辛句：考察



言語主体の精神療法
知的防衛が言語化に抵抗

自由短詩
リズムと象徴

音楽表現や絵画
夢などと同様

圧縮・置換・投影・象徴化
葛藤表出と適度な抑制
自由連想法に似た効果

一次課程の加工

カタルシスをともなう交流
葛藤の受容・洞察・自己変容

冠難辛句：留意点

自由短詩 = 言語 + 非言語機能

言語性 ⇒ 表出内容が具体的

- + 強いカタルシスをもたらす
- 後で負担になることもある

ほとほとにな
語らせあきない

クールダウン
わあれおに



あなたも一句冠難辛句

長期入院や療養生活で語られる言葉
ほろ苦く、弱さの力 柔らかでしたたかさ

治療・援助で寄り添う者の心にグサリ
鋭くも小気味よい言刃（ことば）
直接伝えるには重すぎる伝えきれないことが
冠難辛句という自由短詩の力を借りて
一片の言の葉（刃）でサラリ、キラリと

あなたも一句 「作業療法」



あなたも一句 「作業療法」

作業療法

許してくださいたくさんしました

作業療法

もうええですわただ働き

作業療法

ジュースもでんのか今度の作業

作業療法

ホントに退院できますか

あなたはまだ
こんな付句が返ってくる
作業療法していませんか
作業療法は
主体性を奪わない
持てる力を活かす
引き出すこと

